

なかしべつ

1月号
No.349

今月の題字：組合長 高橋勝義



急ぐことなくゆつくりと自分のペースを守りますと話す奥田美晴さん

なかしべつ新年号

もくじ

CONTENTS

- JAより皆様へ新春のごあいさつ..... 2
- 2004年の我がJA..... 3
高橋勝義組合長談話
- 新年にあたり..... 4
JA北海道中央会 宮田会長挨拶
- 普及センターの新年度の取り組み..... 5
北根室地区農業改良普及センター 広瀬勉所長
- 2004年農業試験場の活用を..... 5
北海道立根釧農業試験場 水島俊一場長
- JA女性部輝ける時..... 6
女性部 横田純子部長
- 2004年のJA青年部指針..... 6
青年部 佐々木大輔部長
- 地区別懇談会を終えて..... 7
- High Quality Milk(山田昇さん・山田良昭さん).... 8
- 全道JA青年部大会/ ●バレーボール、出会い、
そして北海道(中田久美さん)..... 9
- 女性部飯寿し教室/管内青年農業者会議..... 10
- 明日を担う若者..... 11
奥田美晴さん
- 酪農ヘルパーの有効活用に向けて..... 12
- 掲示板..... 13
- おめでとうございます/編集雑記..... 15
- 誌上ギャラリー..... 16
「なかしべつ」の牧歌的風景

あけましておめでと
うございませす

幸多き春を迎えられたこととお慶び申し上げます

平素のご厚情に感謝し、皆様のご健康をお祈り申し上げます

本年もよろしくお願ひ致します

平成十六年一月



中標津町農業協同組合

代表理事組合長	高橋勝義
副組合長理事	藤井美智夫
営農委員長理事	上村重光
管理購買委員長理事	鈴木祥幹
生産委員長理事	中村清雄
理事	川林忠文
理事	篠永直
理事	瀧場慎二
理事	清原賢一
理事兼務参事	乾村聖一
理事兼務管理部長	西村善行
代表	渡邊昭男
監事	土井上
川瀧	平義明
川	邊優一
ほか職員一同	

2004年の我がJA



代表理事組合長 高橋 勝義

新年あけましておめでとうございます。皆様には二〇〇四年の門出をご健勝でお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて昨年は長期的な景気低迷によるデフレ経済下に、日本経済システムのありかたが大きく問われた一年でありました。構造・規制改革の動きに加え、J A本来の目的や役割にまで及ぶ法改正や議論が打ち出されるなど、さまざまな変革の波が押し寄せました。

農業交渉をめぐる情勢では、W T O (世界貿易機関)新ラウンドの難航により、個別国同士のF T A (自由貿易協定)締結を目指す動きが活発化しました。しかし、日本とメキシコでは隔たりが埋まらず、このF T A締結交渉が本年に持ち越され、再協議を行うことになりましたが、メキシコの強固な姿勢から早期締結は難しいものと思われます。

本年度は新ラウンド再開に向けた方向づくりと、これらの交渉について重大な局面を迎えるものと思われ、日本農業を犠牲にすることなく基本姿勢を貫くべきであります。一方、農業情勢では台風十号及び

十勝沖地震、冷害など農業に極めて深刻な被害を及ぼしました。そして、この記録的な冷夏は米の不作による価格高騰をもたらしました。

反面、人参・だいこんは豊作で、寒冷地作物の地域差が大きく現れた年だったといえます。

本組合においても、だいこんの全国的な豊作のため市場が値崩れし、出荷価格が採算ラインを割り込み、生産農家には苦しい状況となりましたが、夏の冷涼な気候を生かしたブロッコリーに着目し、将来の畑作物農家の経営を安定させる収益作物となるよう、産地化をめざして試験栽培をしているところです。市場の評価も高く、馬鈴しょ、てん菜、だいこんにつぐ品目として期待を高めております。

産地の偽装や輸入農産物の残留農薬汚染。さらに無登録農薬を使用した販売物の流通発覚などの一連の事件は、食の安全性に対して消費者に

強く不信と不安を与えることになりましたが、昨年の牛トレサピリティ(生産履歴)法の施行により、本組合においてもB S E蔓延防止と、牛肉の安全性に対する消費者の信頼確保を目指す「安全・安心」への取り組みに一歩踏み出しました。

農業は本来、環境と調和して営まれる産業です。昨年はふん尿環境対策に我々は総力をもって取り組みましたが、いよいよ本年十一月より家畜排泄物管理法が罰則適用段階に移ります。我々には食に対する社会的使命があり、これを果たすため環境と調和した持続的農業の展開と、より安全でクリーンな農畜産物の生産に全力をあげて取り組みたいと思っております。

食を支えJ A中標津の一層の発展・充実を図っていくためには、今後とも皆さまのご理解とご支援、ご協力が不可欠であります。

皆さまにおかれましては旧年にもましてご尽力賜りますようお願いいたしますとともに、希望に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。

新年にあたり

北海道農業協同組合中央会会長 宮田 勇



謹んで新年のお慶びを申し上げます。
新しい年が希望に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。

昨年の本道における農作物の作柄は、低温や日照不足による記録的な冷夏の中、水稲・豆類を中心に農産物全般で不良になりました。特に米の作況は、全道平均で七三と平成五年以来の著しい不良となり、さらに、台風十号、十勝沖地震など災害が発生し、日高、胆振、十勝地域を中心に農地や農業施設に甚大な被害が発生いたしました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、食料・農業・農村・JAを取り巻く状況は、WTO、FTA交渉が大詰めを迎える中、BSE問題や食品表示の偽装問題など食の信頼を揺るがす事件が発生し、JAが販売する農畜産物に対する消費者の不安解消のため、食の安全性への取り組みが急務となっております。一方、担い手対策や農地対策など農業構造問題への対応に加え、迅速なJA改革も強く求められています。

そのような状況をふまえ、昨年十一月「第二十四回JA北海道大会」

を開催し、二十一世紀初頭における向こう三カ年のJAグループ北海道が取り進む指針を策定致しました。大会では「信頼の絆で創る「共生の大地北海道」」をキーワードに、JAグループ自らが実践することとして、組合員に対しJAが地域農業振興の拠点として、JAへの結集を強化し農家経済の向上・安定に全力を尽くすこと・地域住民に対し、JAの健全経営の徹底と、JA理念を活かした魅力ある事業を提供すること。さらに、消費者に対し安全・安心な北海道産農畜産物を提供すること、以上のことを基本姿勢として「食と農信頼の絆を育む北海道農業の展開」「組合員と地域の信頼に込めるJA経営の展開」を決議し、消費者に信頼される安全・安心な農畜産物の提供と、地域に信頼されるJA事業の展開を目指していくことと致しました。本年は実践初年度、新しい未来

に向かって、決議事項の確実な実践により安定した北海道農業と、JA事業の確立に向けて邁進して参りたいと存じます。

一方、対外的にはWTO農業交渉、FTA交渉が山場を迎えます。北海道農業が日本の食料供給基地としての確固たる地位を築き、食料自給率の向上と消費者への安全・良品質な農畜産物の供給を目指すために、日本農業の存在自体を否定するモダリティ案は断じて認めることができません。日本提案が認められるよう地域住民との連携を強化し運動を盛り上げていきたいと存じます。

JAグループ北海道は組合員、JA、地域住民の期待と信頼に応えるためこれからも全力で取り組んでまいります。

最後に、本年が豊穰の出来秋を迎えることができますよう心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



北根室地区農業改良普及センター

所長 広瀬 勉

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
農業を取りまく状況の大勢と課題として、次の三項目が挙げられると存じます。

普及センターの新年度の取り組み

「食料需給国際化と競争力のある農業経営」、「食の安全・安心と環境に配慮した農業」、「地方分権と地域経済の活性化」。

さて、普及センターでは、このような状況も見据えて、今年度は次の取組みを重点に進めていきますので、よりいっそうのご理解をお願いいたします。

一点目は、「糞尿の有効活用」です。圃場の地力や作物に合わせて施用するための土壌分析診断を進めていきます。これは、トレーサビリティの推進やコスト低減にも資するもので

す。

二点目は、「良質粗飼料生産による粗飼料自給率の向上」です。共同作業により調製されたサイレージの分析結果の傾向と対策を整理し、飼料給与設計と自給率向上に反映させていきます。

三点目は、「新作物の定着と検討」です。中標津では、畑作農業も、一軸を成していますが、作物数が少ないことが課題となっています。ダイコンに続いてブロッコリーの定着に邁進し、これに続く新作物も検討していきます。

新しい年が、ご多幸であり新たな発展の年でありますようご祈念申し上げます。



年6回発行の「普及のまど」でも情報を伝えます



北海道立根釧農業試験場

場長 水島 俊一

新年あけましておめでとうございます。日頃から農業試験場に多くのご支援、ご協力を戴いていることに改めてお礼申し上げます。
昨年は異常気象によって全国的に

2004年農業試験場の活用を

十年ぶりという大冷害に見舞われ、根釧地方でも飼料作物に多少の減収が見られましたが、稲作などに比べるとその程度は軽いものでした。むしろ、厳しい状況にある北海道農業の中で、酪農経営の好調さが目立った年かと思えます。

これは冷涼な気候に適した酪農をこの地に導入、育てた先人の知恵と努力の賜物であり、開拓以来の流された汗と涙が実を結び、今ようやく享受していることを感じます。

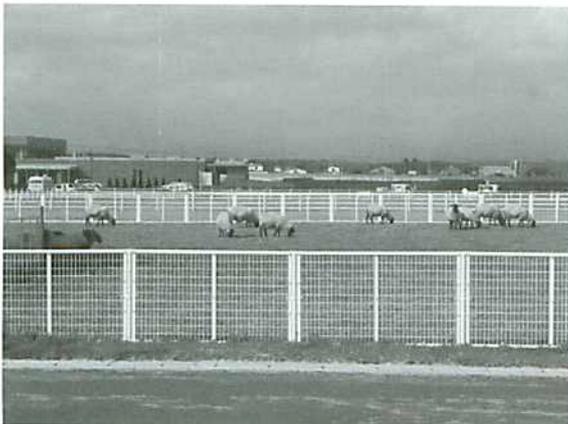
と同時に、この豊かな実りをきれいな自然と元気な地域社会とともに、

次の世代にきちんと引き継いでいくことが責務であろうと考えます。

昨年、根釧農業試験場は昭和二年以来の庁舎と訣別し、先端技術で装備された新庁舎に移転しました。その内容、規模ともに日本一の酪農試験場と言えます。「新しき皮袋に新しき酒を」、職員一同、新たな心で酪農と地域の発展に向けた技術開発に取り組んでいます。これまでも増して試験場を活用していただけますよう、お願いいたします。

終わりにJ A中標津と組合員の皆様

年頭のご挨拶といたします。



農業試験場にいる羊は食用ではなく試験用です



中標津町農協女性部
部長 横田 純子

皆様、あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで新春をお迎えることとお慶び申し上げます。いつの時代も新しい年を迎えるということ、は身の引き締まる思いが致します。



中標津町農協青年部
部長 佐々木大輔

明けましておめでとうございます。本年が皆様にとって希望に満ちた年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、平成十五年度を振り返りま

JA女性部輝ける時

昨年は、私たちの女性部にとりましても記念すべき一年でした。部員の協力のもと、盛大に五十年という節目を祝うことができました。次のステップに向かって「元氣」の良いスタートの年です。時は常に流れています。女性の存在感が今は各々の場面で必要です。男女平等参画社会が字面だけでなく名実ともになるまで、訴え続けなければいけないと思います。しかし、「らしさ」を失っては元も子もありません。若ければ「若い女性らしさ」、年齢を重ねてもそれなりの奥ゆかしさは必要です。その

気持ちを持ち続けることが、自分を輝かせることだと思えます。「ま、いいか」はやめましょう。そして、個々の輝きが集まる…それが女性の輝きにつながります。
新年度からは、役員メンバーが一新して新しい活動が始まります。家庭の太陽である女性が地域の太陽になり、その地域の太陽が集まりJA女性部をさらに輝かせるような発展の年となりますように、ご祈念申し上げます。春のご挨拶と致します。

二〇〇四年のJA青年部指針

すと、ここ数年続いていたような大事件も無く、BSEにより下落した個体販売価格も発生前の水準にまで回復してまいりました。さらに、順調な生乳生産と全体的に良い年だったのではないかと思われれます。

しかし、今後に向けての問題点も多くあることも事実です。WTO農業交渉は暗礁に乗り上げ、我が国の農業は予断を許さない状況におかれております。また、昨夏の気温が低温で推移したために生乳・乳製品の消費が落ち込み、それに伴い脱脂粉乳が過剰在庫になっているのが現状



です。脱脂粉乳が売れないことは、生乳生産にブレキがかかるとはという不安要素も含んでおり、このような問題をこれからのJA中標津を支える私たち青年部層が真剣に考え、議論



し、現場の生の声を国へと伝えることが必要になってくると思っています。

平成十五年度、青年部は多くの、そして新規の事業に積極的に取り組みました。消費者との交流や支部単位での農政組織研究発表大会などを通して、部員は確実に成長していると思えます。今後もこの努力を怠ることなく、個人と組織の成長を目指して欲しいと思います。

最後に組合員の皆様には、まだまだ未熟な私たち青年部を温かく、そして時には厳しく見守って頂ければ幸いです。

地区別懇談会で皆様より 様々なご意見を頂戴いたしました



平成15年12月1日から12月4日まで、4日間の日程で地区別懇談会を開催し、全7地区で合計79人の皆さまのご出席をいただきました。

各地区なごやかな雰囲気の中、和気あいあいと懇談会が取り進められました。その中で、比較的多くお寄せいただいたご意見について、簡単にご報告致したいと思います。

議題として説明いたしましたのは、平成十五年度十月末の主な事業概況について。高性能糞尿散布機械導入に伴う格納庫の取得について。生乳毎日集荷者の対応について。ブロックリーの導入と機械投資について。ハイクオリティミルク宣言奨励措置の実施経過について。平成十五年度北海道生乳安定化対策事業費の返戻などの詳細です。

ふん尿散布機の稼働状況についてお尋ねされました。年間一、一六七台を計画しております中、年度途中ではありますが十一月末で六三六台の実績となっております。当初予定していたより効率が良く、来春からの稼働で計画以上の実績を期待できそうです。

毎日集荷の場合の加算金について、「二カ月分は徴収されない」と誤解されている方がいらつしやいました。二カ月を超えた場合は、その二カ月分も含めて加算されるということとを補足のうえ説明いたしました。また、大規模経営のブレーキとならないよう二十二万円の上限額を設けたものでご理解をいただきました。ブロックリーの導入と機械の投資



については、先行きに不安を感じる反面、多くの方が将来の作目として期待を寄せられているようでした。当地の冷涼な気候に適した作物で、市場での評果もたいへんに良いことを踏まえ、今後の体制づくりに取り組んでまいりたいと思います。

ハイクオリティミルク宣言奨励措置の実施経過については、目標を持って努力してきた結果、奨励金が減額されるということに若干ご不満をお感じの方がいらつしやる一方、乳質改善の成果の表れで、大変好ましい結果であるというご意見も聞かれ、奨励金を返還するよりは、さらに良質乳の生産に取り組めるよう機械整備の助成など、有効に活用されたいという希望の方もいらつしやいました。

その他のご意見では、発情発見システムの取りまとめについて、その後どうなったのかお問い合わせがありました。別なシステムについても較検討のうえ、再度実施に向けての整備を行いたいと考えております。

また、国の土地利用型事業の補助金削減に対する不安が寄せられました。BSE対策で財源確保が困難となったというものであります。その趣旨からも安易に削減されるものではなく、今後とも、国政全体の予算を見ながら農協として国に対して交渉に臨みたいとお答えいたしました。

師走の懇談会ということで、何かとご多忙のなかをご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆さまの貴重なご意見につきまして役員会にて検討し、今後の事業に反映させてまいりたいと思います。





High Quality MILK

宣言

第9弾

当幌支部
やまだ のぼる
山田 昇

開陽支部
やまだ よしあき
山田 良昭



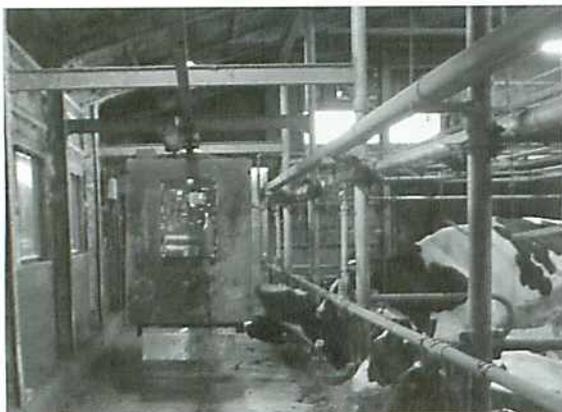
伝染病

新年明けましておめでとうございます。
当幌地区の山田昇です。後継者となり営農をするようになって20年余りが過ぎました。
さて、我が牧場では、乳質について特別「これだ」ということはしていません。

乳房炎は「早期発見・早期治療」、乳牛の健康を保つことが大事ではないでしょうか。そして、汚れた牛乳は出荷しないと言うことが大切であり、毎日の飼養管理が重要であると思います。

他牧場との違いを強いて挙げるとするならば、自動給餌機を設置していることでしょうか。サイレージをセットすることで、牛舎内への給餌作業が自動化されるため、時間的な余裕は持てるようになりました。この時間の使い方は様々あるのですが、飼養管理に向けられれば一番良いのですが…。

みんなで、安全で安心して消費者に出せる、クリーンな牛乳を生産する時代です。私たち生産者は、「消費者」あつての生産者であることを念頭において、私も、より一層の乳質向上に努めていきたいと思えます。



自動給餌機は作業効率を上げるために有用なもの

	平成14年度 現状	今後1年間の 目標
生菌数	0.2万	0.2万
最重点項目 ← 体細胞数	19.1万	17.0万
F%	4.06%	現状維持
SNF%	8.72%	現状維持
P%	3.22%	現状維持
全固形	12.77%	現状維持

最近まで道外で極真空手の指導員として練習生の指導に当たり、実家に戻って1年半になる開陽支部の山田良昭くんです。今回のことで、自分の毎日やっている仕事をノートに書き出すと、こんなに仕事をしていたの? とびっくりしていた山田くんですが、今回は特に搾乳中に気を付けていることについて話してもらいました。オス!

* *

私が搾乳中に気を付けていることは、過搾乳にしないことです。私の牧場のミルカーは、アルファラバル製ですが、デラパックという装置が作動する前に、クローを流れる牛乳の具合を見て、ミルカーを外すようにしています。

過搾乳によって、乳頭が固くなり、乳頭口が痛んでしまった状態で乳房炎になると、治療が長引き牛が足を上げたりと、作業をするのが大変不便になりますので、気を遣っているところです。

今後の予定として、今、使っているミルカーは、交換部品の在庫が無くなっている状態なので、時期が来たら、電パル自動離脱の滑車付きに変えようと思っています。そして、今の時期は、うちでは牛が舎飼状態になるので、送風機を使って牛舎内の空気のおよみを無くし、乳房炎の発生を押さえたいと思います。



クローに脱みをきかせて、デラパックが作動する前にミルカーを外します

	平成14年度 現状	今後1年間の 目標
生菌数	0.2万	0.1万
最重点項目 ← 体細胞数	26.7万	20.0万
F%	4.09%	現状維持
SNF%	8.59%	8.70
P%	3.20%	現状維持
全固形	12.68%	現状維持

盟友札幌に集い 熱い想いを!

平成十五年十二月四日、五日の日程で札幌・川沿のグリーンホテル札幌を会場に行われた、「第五十二回全道JA青年部大会」は、全道各地からたくさんの方々が集い、各地での取り組みや農業にかける熱い想いを実感できる大会となりました。

今回、我がJA青年部からは、管内では一番多い七人が参加、全道各地の活発な青年部活動を目の当たりに出来、有意義な大会参加となりました。

主張大会(フリースピーチ)では、道内六地区から各一人が、青年部活動について、生産履歴についてなどの意見や考えを発表しました。続いて行われた実績発表大会でも、道内六地区より各一人が青年部の活動事例を発表。今年度の我が青年部活動も事例発表すると、なかなか上位に食い込めそうな内容のを行ってきただと思いますが、JAいわみぎわ青年部の小松貴司さんが発表した「情熱〜それは熱き青年の心〜」が、その

中でも内容、発表表現力ともにピカ一でした。米をPRするために部員が米俵をバトン代わりにリレーし、札幌のSTVラジオ局まで歩く「情熱米直送便」事業について報告しました。今年で九年目を迎え、事業をこなすことが目的になってしまい、「また今年も走るのか」という葛藤もあつたが、活動の見直しと直売会などとの連携で消費者にもっと近づき、地産地消を訴えようと、支部での説明を行い、事業の意味を再認識して活動を大きくしていったことを紹介されました。

記念講演では、元バレーボールオリンピック選手の中田久美さんが、



元オリンピックバレーボール選手
中田 久美さん

中学三年生の私に課せられた決断は、日立に行くか高校へ進むか。女の子として高校進学への憧れはあつた。同年代の子たちも高校へ行ってバレーボールを続けるといふ進路をとつた者もいた。悩みに悩んだ末、自分自身。本当に私が目指したかったの



「バレーボール、出会い、そして北海道」と講演(内容別枠)しました。

二日目の分科会では、第三分科会(酪農畜産)に参加しました。米、畑作などの厳しき農業の中では、酪農畜産分野が置かれている状況は切迫していない部分も多いが、国に対しての要求を訴え続けていかなければ、うやむやのうちに我々の正当な理由も消されてしまう。と未来ある我々青年部のメンバーが農業が直面している問題を学び、どんどん話をしていけるような体制作りをしなければならぬと訴える参加者もおり、参加した七人とも、得る物が多かった実りある大会参加となりました。

はオリンピックでであり、全日本日立入りすることに決めた。

勝負の世界は厳しい世界。レギュラーとして、コートに上がれる六人が一番で、例えば補欠である先輩は新人のレギュラーよりも格下扱いなのです。衣・食・住や練習しているコートに至る全てが。このような過酷な競争の中で人に勝つためには、人が休んでいる時に練習するしかない。

専用コートで何千本ものトスをセッターとして上げ、山田監督とぶつかり明日こそ辞めてやると思ったときが何回もあった。でも、専用コートに自分の練習の成果である汗のシミが広がるのを見ると、続けようという気持ちになる。そんなことで、勝ち気な性格になってしまったのではな

いか。

昨年のワールドカップで活躍した若い選手に言った言葉。「コートに入ったら、十九も三十一(年齢)も関係ない。弱気を見せると狙われるから下を向くな!」本当に、伸びる選手は一戦一戦の試合の中でも成長していく。同じ練習時間でも、やらされていると思うより、勝つためにどうしたらよいか考える練習は成果が違ってくる。一人ひとりの役割をきっちりこなすのがチームワークなのです。

人が休んでいる時にこそ練習
やらされると
思わず考える

待望の女性部飯寿し教室、 名人より丁寧な技術指導を

野菜・魚酢、しょうが、ご飯、梅いっぱいになるまで作業の繰り返しです



十二月四日、農業農村交流施設「クレエ」において、女性部の飯寿し教室が行われ、三十五人が参加しました。この教室は、昨年度から企画されながらも、講師の方との日程調整が難航し、延期されていたもので今回やっと開催に至ったものです。JA標津の女性部員で、標津町の飯寿し

根室管内青年農業者会議で中標津町4Hクラブが活動発表

「なんだ!? テンペペ?」が優秀賞に

十二月十九日に根釧農業試験場を会場に行われた、平成十五年度の根室管内青年農業者会議で、当町4Hクラブが研究発表を報告し優秀賞を受けました。

プロジェクトのきっかけとなったのは、最近の同クラブ研究内容が酪農生産技術中心のものになっており、農業全体を見渡すためにも、畑作農業も目をむけた取り組みをおこなうとしたもの。

そこで、あまり知られていない加



テンペを紹介する中司さん

コンテストなどでたびたび優勝されている若杉クラさんと、佐藤昌代さんを講師に迎え、一連の作業工程、秘伝の技などを詳しく教えて頂きました。

参加者の飯寿し歴は、自分の家では毎年漬けてはいるものの、上手に漬からないとか、飯寿しを食べることと専門で、一度も漬けたことがないなどさまざまです。経験者の中には、「材料代も安くはないので、いかに失敗しないでおいしく漬けられるかが

工品に挑戦することに意味があるのだと、インドネシアの伝統的な大豆発酵料理「テンペ」について研究することになったもの。

春、大豆の栽培から開始したものの、クラブ員はみな畑作物生産に関しては素人。手作業の管理作業、半年間の大豆栽培は、知らなかったことを学びながら行っていく楽しさと、多くの発見があったようです。

春からこの活動を続けていく途中、各メディアでもテンペが取り上げられ、札幌の食品会社も市販品を販売開始し、ちよっと評判になってきました。

大豆をテンペ菌(クモノスカビ)で発酵させたこの食品。冷やしてそのまま食したり、油で揚げたり、炒めてチャーハンの具にしたりと用途は様

重要なのよ」と話す人もおり、見本で漬けた一樽の上までぎっしりと鮭やキャベツ、にんじんなどの材料が敷き詰められていく間に、下準備のコツや温度管理などの注意点を熱心にメモをとっておりました。

古くから伝承されるこの飯寿しは、つけ込みから約五十日で食べられるということと、今回、漬けた飯寿しは女性部の新年恒例会で振る舞われる予定となっております。出来上がりから今から楽しみですね。



まな板の上のテンペ、ねばつかない納豆の食感

々です。発表の時に参加者へ振る舞ったものは調理してから時間が経っていたものなので、あまり評判がよいとは言えなかったようですが、この「テンペ」によるプロジェクトを同クラブの今後の活動の内容に定着し、さらに発展させる計画です。

奥田 美晴さん

【パーソナルデータ】

昭和54年3月20日生まれ、24歳。

家族構成は、母(寿美子)、祖父、祖母、妹2人



酪農女性後継者 趣味で台本、 脚本もする「文才」

青年部を中心に誌面を飾っていますので、今まで女性の後継者が載ることはありませんでしたが、平成十六年新年号ということで、華やかに、今回は女性に登場してもらいました。

笑顔がすてきな奥田美晴さんは中標津高校を卒業後、帯広は大谷短期大学に進学、日本語日本文学科で学びました。卒業後に中標津へ戻って現在、四年目が過ぎようとしています。

三人姉妹の長女ということで、妹たちは「姉が継ぐだろう」と、私も「なんとなく継ぐのだろう」と疑わずに思ってしまったのです」と本人が言うように、短大入学前から卒業後は、就農することを決めていた美晴さん。しかし、「短大卒業までは、ほとんど酪農作業にかかわらずに過ごし、たまに手伝う程度でした」と学生時代を振り返ります。

「私が戻った時、昔からの牛舎や機械施設なので、他の近代的に設備された酪農家に比べ、人が係わる労働が多いということもありますが、自分の体力がなくて大変きつい仕事であると実感しました。戻って一年目に普通免許と大特を取得して、二年目の夏からはトラクターにも乗って、牧

草収穫作業にも携わるようになりました。日々の主な仕事は搾乳全般です」と板に付いてきている様子です。

女性部活動の方は、日程が合わずになかなか参加することが出来ないですが、先般おこなわれた女性部五十周年の余興では、当幌支部の出し物の「要」役をこなしていました。

そんな美晴さんの趣味は、読書。「本屋にはしょっちゅう買い物にいつているみたいだよ」とは、お婆ちゃんの佳枝さん。

読み手は書き手に通じるもので、中学生の頃から「このくらいなら自分でも書けるかな」と台本、脚本、シナリオなどを書いたりしていたとのこと。その延長で、パソコンでのWEBドラマ作りにも参加。脚本を美晴さんが書いて、音や台詞の朗読をメンバーが行い、インターネット上に公開するものです。「共通の目標を持つ様々な業種、年齢の人が協力して作るため、酪農以外の情報も入ってくるし、息抜きになるばかりでなく、ためになる。また、違和感なくつきあえる。シナリオ書きは空想を広げて行かうが、私は、一年一年頭が固くなっているな」と思うことが多いことが多かった」と笑みを浮かべる。

外見の色白できゃしゃな体つきとは反して、スポーティな面もあり、「仕事にしても、趣味にしても自分のペースを守り、自分のできる範囲で無理せずに頑張っていきたい」とこれからの豊富を話してくれました。

酪農ヘルパーの有効活用に向けて

経営企画課

ヘルパー利用組合では、いまでも継続して、ヘルパー利用に関する意向調査を実施しております。地区の役員さんの協力を得ながら、全戸回収に向けて取り組んでおりますので、ご協力をお願い申し上げます。

また、平成十五年度一月から三月までの申し込みにもまだ余裕のある日程がございますのでご確認の上、活用いただければ幸いです。

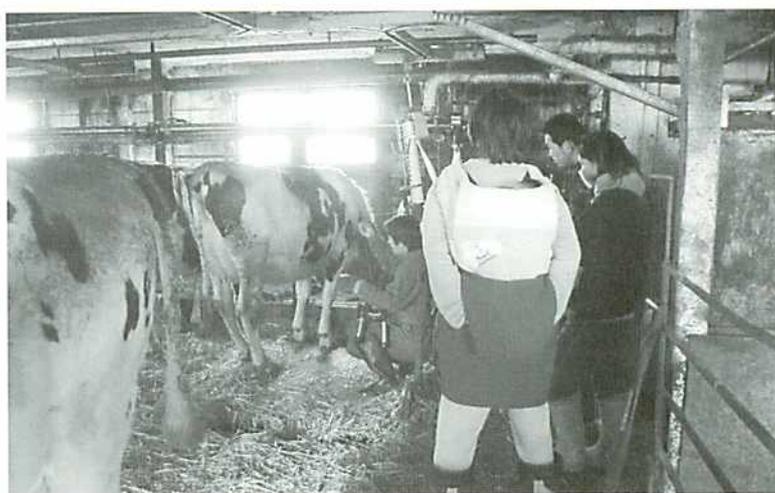


さて、ヘルパー利用のルールについて確認のために掲載いたします。

上の写真は(術)ファム・エイ(以下ファム・エイ)の職員が注意を促す看板の補修作業をしているところです。「乾乳牛」・「三本乳なので控らないように」というような情報伝達を行うための看板ですが、本来であれば、ヘルパーを頼む側がそういった情報の整備を行い、牛舎に掲示して置くことがヘルパー利用規約の中で表現されています。

しかしながら、未整備の利用者が中標津だけでなく、計根別農協、上春別農協でも依然存在しているのが実情のようです。このような状況でもファム・エイが作業を請け負ってくれているというありがたい状況もあるのですが、そのままではいかんと、ファム・エイ側も自衛策を講じているということになります。こうしたものの整備費用がファム・エイの経費負担になっていることは否めません。

続いて、引継ぎのことになります。引継ぎの時は、事前に引継ぎ事項をファム・エイ側に詳解する必要があります。



引継ぎが面倒であるという利用者さんがおりますが、確かに毎回の利用で電気のスイッチの場所から機械の使い方などを、全て最初から教えるとなると大変なものです。作業を家族で分担している利用者については、それぞれの担当者からヘルパー担当者へ引き継ぎがなくてはならず、よけいに煩わしかったり、「奥さんが(旦那さんが)教えたろう」と思い違って、伝達されなかった重要事項が出てしまうことがあるかも知れません。

数年前、ファム・エイでは九一年間がかりで、その農家の機械の使い方や施設の詳細を個別聞き取りして、デジタルカメラなどで収め、膨大な丸秘ファイルとしてデータ取りしてあるということです。当農協で現在、回収しているアンケート回答にも散見されますが、この農場ファイルが有効に活用されていけば、そのファイル内容についての確認行為と、控ってはダメな牛の確認(逐次変動するため)といった、ちょっとした引継ぎで終了させられるはずであるというものですが、まだ、効果的に活用されていないようです。

連続してヘルパーを頼んでも、毎回来るヘルパーが違うということも耳にします。利用者側からすると、一番心配なところでしよう。このファイルがあり、更新作業が頻繁に行われていてもパーフェクト。誰が来ても大丈夫です。というわけには行かないかも知れません。

なぜなら、人が作業を行っているものであるからで、機械仕掛けの業者ではないためです。風邪気味だったり、集中できない悩みを抱えていたり、様々あると思います。

双方なるべく万全な体制で臨めるように、利用者は作業者に対する気持ち、ファム・エイ側は、可能な限りせっかく整備したはずの農場ファイルを有効に活用できるような体制整備を、早急に整える必要があると思われれます。

みんなの情報・告知

掲示板

募集・依頼

**J A根室地区女性協議会が
ふれあいお便り運動を実施**

【JA根室地区女性協議会】JA根室地区女性協議会(横田純子会長)では、「ふれあいお便り運動」に係り、使用済み切手やプリペイドカードなどの回収取りまとめを行っております。「ふれあいお便り運動」とは、暑中お見舞など手紙や葉書による心のふれあい・交流を図り、古切手やプリペイドカードの回収によって国際ボランティア活動の一助をおこなうもの。

回収しているものは古切手、書き損じ葉書、使用済みプリペイドカードです。一月二十九日まで必着で組織

広報係2-3721(鈴木)まで宜しくお願いいたします。

なお、今回の回収終了後も継続して回収運動を行いますので、引き続きご協力をお願いいたします。

**生活習慣病検診を受診しましつり
保健センターで17日〜20日**

【中標津町保健センター】中標津町保健センターでは、生活習慣病検診を下記の日程で行います。▼期間▼平成十六年一月十七日から二十日まで。▼場所▼中標津町保健センター(東七西三)▼検診内容▼基本健康検診(・尿検査・血液検査・心電図検査・検診)、胃がん検診(・X線間接投影(バリウム)、肺がん検診(・胸部X線間接投影)、エキノコックス症検査(・血液検査)、肝炎ウイルス検査(・血液検査)H C V抗体検査・H B V抗原検査)▼それぞれの検査について対象者要件があり、対象者は町の補助を受けられます。当農協では町からの請求金額に対して二分の一の補助を行います。受診料金の詳細などは下記へ▼申し込み先▼一月九日までに中標津町保健センター(☎2-2733)へ。

出来事

**一年の事業を振り返り
JA青年部が反省会**

【JA青年部】JA青年部の平成十五年反省会が十七日、寿宴でおこなわれ、これまでの行事の反省や全道大会参加者からの報告、新人部員の紹介。楽しいゲームやアトラクションなどで、同日行われていた農協役員忘年会ほどの激しい盛り上がり

りはありませんでしたが、楽しいひと時を過ごしました。



**J A組合長杯ソフトバレー大会
参加42チームの頂点は**

第八回JA中標津杯のソフトバレーボール大会が、バレーボール協会の協力などを得て十四日に開催されました。今年度は、混成青年の部二

十九チーム、混成壮年の部十三チームが熱戦を繰り広げました。▼試合結果▼青年の部・優勝▼K S C - B、準優勝▼中標津J V - A、三位▼K S C - A、チームブレイク B。壮年の部・優勝▼中標津J V - B、準優勝▼スナップG T、三位デ ンデ、K C M。



開陽 VS 当幌の試合に



依橋・高嶋くんのアタック

根室管内農業青年会議で 櫻坂君・高嶋君が発表

【北海道立根釧農業試験場】十九日に根釧農業試験場で行われた、根室



櫻坂直俊さん



高嶋敦志さん

ルーキーズカレッジ研修会 「経営の実際」を学ぶ

ルーキーズカレッジのカリキュラムの中で、当農協を代表する酪農家から「経営の実際」を聞く研修がこのほど行われました。コーディネーターに根釧農試の西海主任専技、パネリストに中林忠雄氏、安田稔氏、白築政博氏、小出清信氏、(有)工藤牧場代表・工藤賢司氏を招き、それぞれの牧場の経営者として、現在までの経緯とこれからの取り組みなどについて紹介を受けました。



管内農業青年会議で櫻坂直俊さん、高嶋敦志さんが、それぞれ自分と酪農業との関わり、そしてこれからの自分の進むべき道について発表に臨みました。

櫻坂くんは「異業種を経験して」

という題名で、様々な業種の仕事を体験してみたら中標津へ戻り、これしかない！と決断し農業の道へ進むことになった経緯と、今後の決意を発表。

高嶋君は「ヘルパーを経験して」という題で、青年ヘルパーとして様々な飼養形態の農家を見て、作業を行ってきたことが向上心につながり、両親達との協議の結果、施設の拡大を行っている最中であること。残念ながら自分の経験が大変プラスとなった青年ヘルパー業務も、家が忙しくなってきたことで行ける機会が少なくなってしまったこと。二世の誕生、今年もう一人家族が増えることもあり、頑張って酪農業に励むことを力強く発表しました。

残念ながら、全道大会への切符は逃しましたが、立派な発表でした。

新年のヘルパー受付は 1月7日からです

年始の業務開始の関係から新年のヘルパー受付は、一月七日からと致します。その月を含めて六カ月前までの受付が行えますので、六月までの受付が可能です。

なお、緊急で必要になった場合は対応いたしますので、ご連絡下さい。
携帯電話090-6697-956
2(組織広報係)

おねがい

冬将軍の到来 スリップ事故に注意して下さい

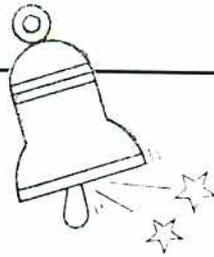
冷夏の後には暖冬が来ると言われており、十二月の中旬になっても雪が降らないなあと思っておりましたら、先日、昼夜にかけて降り続け、どうやらこれが根雪になりそうです。

この時期でも、どうしても車を運転しなければならぬので、スピードを落とすとして、シートベルトを必ず締めましょう。正月のおめでたい席でお酒を勧められることがあるかもしれませんが、飲んだら乗らない精神でお願いいたします。



スリップしてスクールバスが路外に横転した事故も(11/19)

おめでとうございます Congratulations!



昨年12月中に披露宴が行われ、縁が結ばれた方々を紹介いたします。
みなさん末永くお幸せに。



12/6 (13:00) 寿宴にて
上ヶ島利春さん&辰巳あつ子さん



12/14(13:00) 寿宴にて
瀧ヶ平訓史さん&北見慶子さん



12/13(19:00) 寿宴にて
藤田 晋さん&渡邊真由美さん

編集後記

▼明けましておめでとうございます。今年も、皆様仲良く、お揃いで新年の門出をお迎えのこととお慶び申し上げます。ついに始まりました平成十六年の夜明けが。昨年はどうな一年でしたか。また、今年のあなたの目標はどんなことでしょうか。

▼私の新年の目標は、ズバリ痩せることです。年間で八kg減に努めたいと思います。昨年流行語となった公約(マニフェスト)といったところでしょうか。一部の読書様の中にはわかっている方もいらっしゃると思いますが、着やせるタイプらしく、けっこう本体は肉付きのいい方なもので…。現象には必ず原因があります。私がこうなった要因はーと考えると怖くなるので止めましょう。

▼仕事上の目標は、せっぱ詰まらせてみんなを、自分を困った状況に追い込まないこと。しかしながら、広報誌でもその他の取り組みについても、やりたいことがたっぷり詰まっていることは事実です。やりたいこととは裏腹に、時間が足りないですよ。

▼新年号は、刷新したところが何か所かあります。今後も誌面に変化を付けていくことを考えておりますが、

ご意見・ご感想をお願い申し上げます。

▼最終ページの誌上ギャラリーのほかにも、皆様に募集をすることがたくさんあります。写真の他に、俳句や短歌、絵。タイトル「なかしべつ」の題字と様々です。他にも農協への想いを綴っていただいても良いですし、可能な限りその担当と協議し、改善していく攻めの農協事業を展開していくというのは高橋組合長のお言葉です。

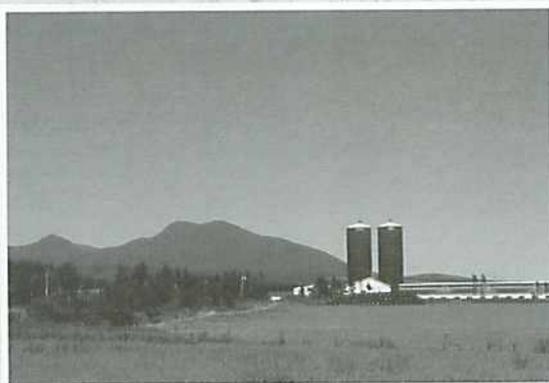
また、お子さんが書かれた絵でもかまいません。表現することで様々なつながりの輪が生まれていき、よりよい農協広報誌に羽ばたいてゆけたらどんなに素晴らしいことか。皆様からの作品をお待ちしております。





第1回 誌上ギャラリー

今月のお題(テーマ)
「なかしべつの牧歌的風景」



このサイロのある風景は竹下耕介さんの牧場。撮る角度によっていろいろな表現を見せます

▼一月号は、「なかしべつの牧歌的風景」というテーマで募集いたしました。ご協力いただきました佐伯雅視さん、森島倉雄さん、大変有り難うございます。北海道に憧れる人にとっては、北海道といえば広大な大地と放牧風景、赤い屋根のキング式牛舎が牧歌的というイメージですが、皆さんは何を「なかしべつの牧歌的風景」と思いますか。

▼知人の写真好きは、「武佐岳とサイロと放牧されている牛の情景が、全一枚に収められる撮影場所が少なくなっている」とぼやいています。

F S 飼養が増え、塔型サイロも解体が進んだために、確かにこの三つを撮れる場所が当農協管内に少なくなっているようです。

▼さて、二月号のお題は「なかしべつのお祭り・イベント」です。お祭りの情景や楽しんでいる人など、いろいろあると思いますので楽しみにします。

▼締切は一月二十日までとさせていただきます。プリントしたものを直接持込していただくか、デジカメで撮影したものをメールで送信していただいても、問題ありませんので宜しくお願いいたします。

